

2020年9月の星空

夜 21 時ごろの東の空に、赤っぽく光る火星が目立って見えている。秋の星空には明るい星が少ないため、火星の輝きはとくに印象的だ。来月 6 日に地球と最接近する火星が、この 1 か月間でさらに明るくなっていく様子を追ってみよう。表面の様子の観察や撮影も楽しみたい。

惑星の周りに広がる星座にも目を向けてみよう。火星が位置するのはうお座、宵のころ木星と土星が位置するのはいて座で、その間にやぎ座、みずがめ座がある。みずがめ座には一番近い準惑星のケレスと一番遠い惑星の海王星がある。どちらも双眼鏡や小型の天体望遠鏡でも見えるので、明るい惑星の観察や星座探しの次のステップとして挑戦してみたい。

明け方になると火星は南西の空に移り、東の空に冬の星座が昇ってくる。さらにその星々を追うように明けの明星の金星も姿を現す。かに座のプレセペ星団と接近する光景を、ぜひ早起きして眺めよう。

2020年9月6日 月と火星が接近

9月6日の深夜から7日の明け方、東から南の空で月齢18の月と火星が接近して見える。

いよいよ1か月後に地球と最接近する火星はマイナス1.9等級と非常に明るくなり、赤っぽい色がますます目立つようになっていく。21時から22時ごろには東の空に見えるので、話題になる機会が増えるだろう。視直径は約20秒角まで大きくなっていて、天体望遠鏡での観察も楽しみだ。次回の接近は10月3日から4日。



2020年9月14日 細い月と金星が並ぶ

9月14日の未明から明け方、東の空で月齢26の細い月と金星が並んで見える。

地球照を伴った幻想的な細い月と金星の共演は、数ある月と惑星の接近の中でも随一の美しさだ。ちょうどこの日は金星とプレセペ星団も接近しており、双眼鏡で眺めるといっそう面白い光景が広がる。ぜひ早起きして観察したり写真に収めたりしてみよう。次回の共演は10月14日。



2020年9月25日 月と木星が接近

9月25日の夕方から深夜、南から南西の空で月齢8の上弦過ぎの半月と木星が接近して見える。

月と木星の左には土星もあり、明るい3天体が集まっている光景が楽しめる。ちょうど空が暗くなったところに南中するので非常に見やすい。肉眼や双眼鏡で接近の様子を眺めるだけでなく、天体望遠鏡でも観察してみよう。月と木星の次回の接近は10月22日、月と土星の次回の接近は10月23日。

